



渡名喜島で

子育てをしてみませんか。

沖縄県渡名喜村

島の子育てのいいところ



地域の見守り

島では親だけじゃなく、村民みんなで子どもたちを見守ります。だからとても安心。幼稚園児も友達だけで、外を元気に遊びまわっています。



健全なリズム

週3回の朝起き会と毎夕18時の児童帰宅で、子どもたちの生活には規則正しく健康的なリズムがつくられています。



活躍の機会

400名の村では子どもたちも貴重な人材です。伝統行事に発表会にボランティア。幼児から中学生まで、ひとりひとりに大切な活躍の機会があります。



親子ともに

サンゴ礁に囲まれた島で待っているのは、海の満ち引きとともに暮らす離島の暮らし。お子さんといっしょにお父さんお母さんも初めての体験が待ち受けているはずです。

子育て支援

入学祝い金
3万円



入園料免除
保育料免除



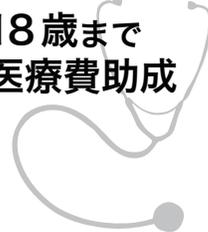
給食費免除



修学旅行代
免除



18歳まで
医療費助成



移住したお母さんの声



2011年東京から移住
小学校と幼稚園の三姉妹

東 京・渋谷の学校に通い、いわゆる都会っ子だった娘たちは、移住して3年が経ち現在は立派な渡名喜っ子に成長し、毎日村内を自由に元気に駆けまわり遊んでいます。渡名喜島には「ありのままの生活や自然」が今もまだ息づき、人と自然が調和している時間を日々感じることができます。

都会に住んでいる時は、放課後は習い事を詰め込み、色々な経験を子どもにさせてあげようと毎日四苦八苦していました。渡名喜島では、道で人に会えばみんなが挨拶をします。島の伝統行事は、学校も授業の一環として積極的に取り入れ、子どもたちも役割を与えられて参加します。

そこにある自然と共存しながら、人との交流の中で子どもたちは育ち、自ら学び、共に力を合わせて生活していくことを経験します。コンビニがないなど、田舎ならではの不便さもそこにはありますが、都会では得ることが難しい大切なものが渡名喜島での子育てでは得ることができると思います。

家 から歩いて3分、青い空と美しい海が目の前に広がる渡名喜島に移住してもうすぐ1年になります。真っ赤なハイビスカスが咲き、伝統的な瓦屋根にはシーサーの姿。渡名喜島は街並みも絵になる静かできれいな島です。

旧暦のリズムで丁寧に暮らす島の方々から学ぶことばかりの毎日です。情報や物があふれている都会から、このすっきりした景色のなかに住むと、はじめは戸惑いもありますが、新たな発見と学びがあります。

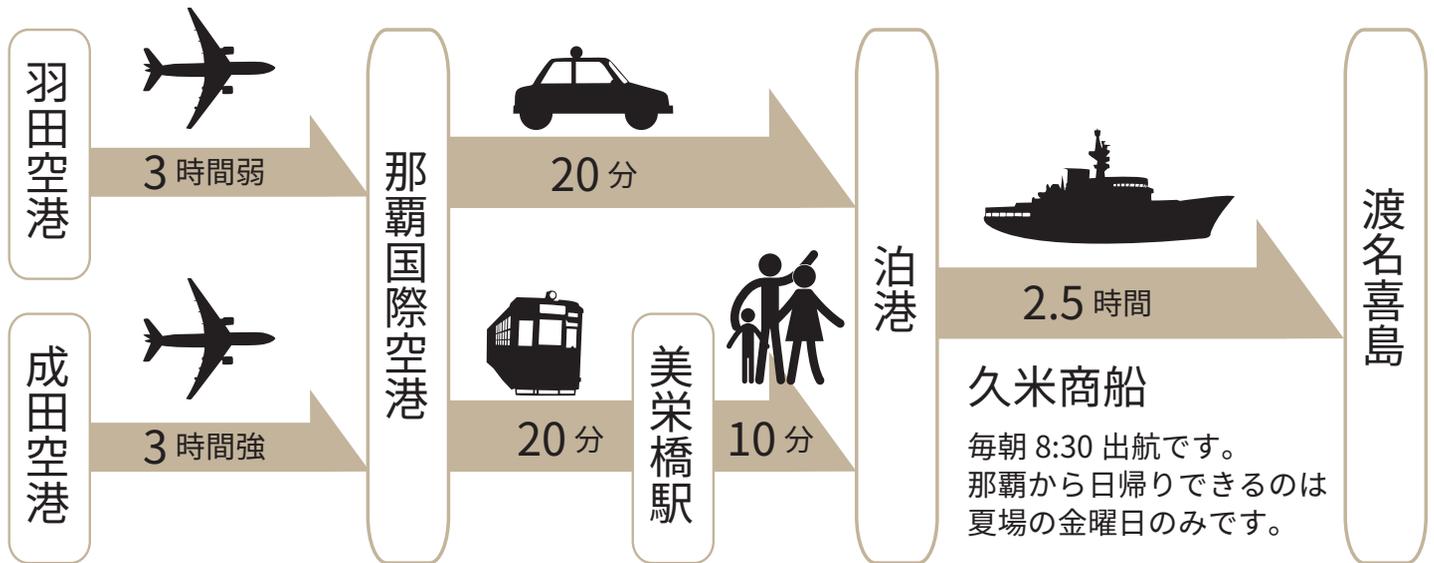
村の子どもたちものびのびと島を駆けまわり、中学生が幼稚園児と遊び、小学校の低学年生が高学年の子から学ぶ姿を見ると、人と人とのつながり、成長してゆく過程を肌で感じとることができます。

沖縄で一番小さな島、日本で二番目に小さな村は、スーパーもありません。便利さに慣れた東京での生活とは環境が大きく変わりますが、自然との呼吸にそった時間の流れのなかで子育てできる喜びを日々感じています。



2014年東京から移住
小学校と幼稚園の兄弟

渡名喜島へ行くには



フェリーが欠航した場合にかぎり、アイラス航空のヘリコプターチャーター費用（渡名喜島～那覇空港）が半額助成されます。



島の宿泊施設は限られており、とくに繁忙期・週末は満室になりがちです。おこしになる際は、島での宿泊先を確保してから旅程をご計画ください。

渡名喜村は多用途住宅の入居者を募集しています。



渡名喜村は本村に移住される方々の住居を確保するため、新たに多用途住宅を建設しました。
2015年2月13日現在、全9戸のうち4戸の入居者を募集しています。

募集〆切 2015年3月31日（火）

家賃 15,000円／月
敷金 45,000円

選考の際は、中学生以下のお子様を扶養す世帯を優先します。ご興味のある方は役場担当までご連絡ください。

〒901-3692

沖縄県島尻郡渡名喜村 1917-3

渡名喜村役場 経済課 土木係

keizai@vill.tonaki.okinawa.jp

詳しくは公式サイトをご覧ください。

渡名喜 入居者募集

検索